



令和6年度 第2回共同機構研修会(動画配信)

保育場面における発達特性の理解～子どもの困りを理解しよう～

講師：岡崎 達也さん(公社)京都市児童館学童連盟事務局主任厚生委員統合育成担当



発達障がいの子どもは、脳の情報処理の仕方が、定形発達の子どもと違う。そのため気になる行動となって表れていることがよくある。特徴として、①目で見えることは得意、②注意が向くところが狭い、③感覚の入りが違う、④独特な理解の仕方をする、⑤自分自身のコントロールが苦手、⑥他者の気持ちに気付きにくい、ということが言える。それらの特性を理解した大人の対応や良きパートナーとしての友達の存在、そして生活空間・生活時間の構造化を整えることで、困った行動にはつながらない。

発達凸凹 + 適応障がい = 発達障がい だと言われている。

故に、適応障がいを起こさせないことが重要だ。乳幼児の時期に、その子の特性を理解し、うまくつきあえる術を共に探っていくことが、大きな支援となる。

子どもの行動には必ず意味がある。特性のある子どもは、意図せず注意を受ける行動をとりがちで、褒められる場面も必然的に少なくなる。良いところを見つけ、肯定的な言葉がけに留意してほしい。

DVD貸出中

アンケートより

- ・今回は貴重な機会をありがとうございました。自分のクラスにも個別に支援が必要な子どもがいるものの、集団の中でどのように関わっていけばよいのか迷っていました。発達特性について学んだことで、子どもの困りについての理解が深まり、関わりのヒントを得ることができました。
- ・子どもの姿を困ったと捉えるのではなく、子どもの不安感や子どもの困りを理解しようとするのが大切であることがわかりました。次は、教師の援助から子どもがどのように変わったのかも具体的な事例などでお聞きしたいなと思いました。
- ・保育体制が厳しく、日中の研修にはなかなか出られないので、今回のような動画配信の研修を増やしてほしいです。
- ・動画配信にいただいたことにより、研修に出られないパート職員も講義を受けることができました。



幼保小架け橋プログラム公開授業 (IN 祥豊小学校)

今年度スタートした祥豊小学校での研究プロジェクトの公開授業・事後研修会には、5小学校14就学前施設 計30名の先生方にご参加いただきました。授業を参観したり、子どもの心の育ちの連続性という視点で講義を聞いたり、グループ討議をしたりしました。

- 授業参観 (45分)
 - 事後研修会 (65分)
 - ・ 今日の授業について1年生担任より
 - ・ グループ討議のポイントについて
- <グループ討議>
- ・ まとめ

授業参観

生活科「なつともだち」

授業での子どもたちの姿を参観しました。子どもたちは、たくさんの見学者がいても、担任の先生の話に興味をもって聞いていました。その後は、中庭に出て夏探しです。小さなバッタ、ネコジャラシ、万願寺唐辛子など、色々なものを見つけては、先生や友達に知らせ、喜びや驚きの気持ちを共有していました。コーンを触ると熱い、夏を触覚でも感じる子どもや「ネコジャラシを水につけてもすぐ乾く！」という発見をした子どももいました。教室に戻ってからは、見つけたことや感じたことをカードに書きました。伝えたい・書きたい思いをもって、懸命に書く子どもたちを、見守り、声をかけられている担任の先生の姿がありました。



事後研修会

公開授業の後は、研修会を行いました。1年生の担任の先生から、入学してからの子どもの姿を見て感じておられたことや本日の授業についてお話しいただき、その後、第6期プロジェクトアドバイザー大倉得史先生(京都大学大学院教授)から、グループ討議のポイントについて、お話しいただきました。

中庭では、並んで見て歩く予定でしたが、子どもたちが積極的に夏探しに行く姿を見て、先生の見える範囲で、自由に見て回ることにしました。



ポイント

「私は私」「私は私たち」という両面の心をしっかり備えた人間を育てていくという事が、保育・学校教育を通しての人間形成の一番の目標だと思います。目に見えない、子どもの心に思いをはせて、意見交換をしましょう。

グループ討議

積極的な話し合いで、予定時間を延長して、グループ討議を行いました。

まとめ

子どもたちがネコジャラシを見つけ、水につけてもすぐに乾く事を見しました。

就学前施設では、遊びの中で発展したことを広げ、探究のプロジェクトとして活動をつなげていくことができます。

小学校では、カリキュラムや最終目標があるので、ネコジャラシだけでは進めていけないところがあります。

★カリキュラムとミックスさせながら、子どもたちが自発的に探求・発展させていくことが、そのまま夏と友達になることにつながるような重ね方ができるといいなと思いました。

本日の授業は、子どもたちの体験、主体性・自発性、そうしたものを大事にしながら、それらを教師が教えたい事柄とうまく組み合わせた素晴らしい授業でした。心の育ちがしっかりと保障されることは、学びの連続性にもつながります。また、保幼小連携に取り組むことで、個々人の力の向上、保・幼・小のチームとしての向上、さらに保幼小含めた地域としての子育て力の向上につながっていくでしょう。

アンケートより

(・のみ=就学前施設の先生、**小**・=小学校の先生)

・子どもたちが楽しそうに授業を受けている姿や友達と関わり合う姿がたくさん見られて良かったです。他の園の先生方の話を聞いたことも良かったです。

・子どもたちが学習に取り組む姿が生き生きしていて、多くの発見がありました。先生の授業が子どもの気持ちに寄り添ったもので、とても安心した中で育ち、学んでいるのだと思いました。

・生活科の授業は初めて見ました。園でも探検、自然見つけなどはよくしていたので、学校でも気づき、あそびから発展して、学びにつなげることを知ることができて良かったです。

・子どもたちの自然な行動や発言が見られたり、聞けたりして面白かったです。自分の思い（感じたこと、気づいたこと、考えたこと等）を文章にして、発表もできるようになるのだと驚きがありました。素直に思ったことを大きな声で伝えられる環境から、担任の先生だけでなく、クラスの友達との信頼関係、安心感がしっかりと築けていけていると感じられました。

小・幼稚園・保育園の先生のお考えを聞かせていただいて、「小学校」がどう見えているか、少しわかりました。一緒に子どもたちについてお話しできて良かったです。

小・先生は、子どもの話に傾聴し、色々なやる気スイッチを入れているので、子どもたちが「よし！やるぞ！」という気持ちになったと思います。保幼で育まれた学びが、小学校でさらに生かされるように教員が学びの連続性を意識した問いかけをしていく必要があると感じました。

研修会が終わった後には、担任の先生を囲んで談笑される姿や、小学校と保育園の先生がお話しされる姿もありました。これこそ、こどもみらい館が目指す保幼小連携です。大人同士が顔を見合わせ、子どもの姿を真ん中において、気軽に話ができる、そんな関係づくりのきっかけを作っていきたいと思います。

祥豊小学校の先生方、貴重な場を提供いただき、ありがとうございました！

下京雅小学校の先生の実践発表

グループ協議

京都市総合教育センター 「幼小接続講座」①

こどもみらい館も、
連携しました。

以前は、総合教育センターが京都市立小学校と京都市立幼稚園対象に行われていた「幼小接続講座」ですが、昨年度からこどもみらい館が連携することで、保育園（所）や私立幼稚園にも対象が広がりました。今回の研修では、京都市立下京雅小学校の先生から、「1年生と5歳児の交流から考える架け橋期の教育」と題して、実際に小学校で行われている、実践をお話しいただきました。その後、「架け橋期の子どもたちのために、幼保小でできること」を保育園（所）・幼稚園・認定こども園・小学校の先生方が少人数のグループに分かれて、話し合いをしました。小学校の先生方と共に、幼保小の架け橋プログラムに関する京都市の実践取組を知り、子ども同士の交流などについて話し合うことで、小学校と就学前施設の相互理解や、公私・施設類型を越えた就学前施設の横のつながりも意識する機会となりました。

ZOOMでの開催でしたが、ZOOM環境が整っていない園（所）も京都市総合教育センターから講座に参加することができ、園（所）・小学校と様々な場所から、保幼小接続・連携に関心をもった、たくさんの先生方が画面上に集まり、幼小接続について学びました。こどもみらい館には、国立幼稚園・市営保育所・民営保育園・認定こども園などの、29名からお申込みいただき、皆さんから様々なご感想をいただくことができました。



地域や小学校、園によって、さまざまな取り組みをされており、初めて知ること、聞くことも多かったです。市全体の就学前の取組の一つとして、小学校と近隣園の交流の場を増やしていけたらと思います。

保幼小連携（架け橋プログラム）の重要性を今回の研修で改めて感じました。



連携を図ることで子どもたちにとって、より良い環境を整えることが出来、自己を発揮して過ごせる大切さを改めて実感しました。連携が密にあることで、園を巣立っていった子どもたちを安心して小学校に送り出せるのだと思いました。



実践報告の後の意見交換では、当園の周辺の小学校と交流することができ、卒園後の子どもたちの生活の様子を知ることができ、良かったです。



この研修・実践発表を聞き、年間計画から始まり、幼保小が垣根を越えて語り合い、実践していくまでの過程を学んで、園でも今後に生かしていけたらと思いました。持続可能な互恵性のある関わりを持つという事、子どもたちのために園も取り組んでいかなければと思いました。

発表をお聞きして、できることを一歩ずつ進められたことで、交流を進められ、素敵な実践をされていると感じました。複数の園が参加することで、子ども同士に関わりができ、1年生で同じクラスになると心強いと思いますので、全体（学校区）での取組ができれば、進められたらと思いました。交流することで、安心・期待をもって学校に入学できると感じました。



令和6年度 第5回(8/1)の研修は、『私たちの保幼小連携・接続へ～子どもの具体的・直接的体験をつなげよう～』（講師：古賀松香先生）です。こどもみらい館での集合研修となります。ぜひとも、お申込みください。（7/18～申込開始）



子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都はぐくみ憲章]より



この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！



発行日 令和6年7月22日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
URL : <https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/>